

オーデュボンの祈り

伊坂幸太郎/新潮社/2003



日本のようで日本でない、外界から閉ざされた場所、荻島。ここには言葉を話し未来を知ることが出来るカカシが存在していた。世界のことを何でも知っているこのカカシは島のいわば神様のような存在だ。その島へ強盗未遂で捕まり、偶然警察の手から逃れることの出来た主人公が訪れる。

主人公がこのどこかずれて暖かい荻島に次第に親しみを覚える中、最初の殺人事件が起きた。犠牲者はカカシ。カカシを殺したのは誰なのか。なぜカカシは自分が殺されることを予知できなかったのか。

相次ぐ事件、魅力的な人物、テンポの良い会話、パズルのピースが嵌まるという比喩が相応しいトリック。ぐいぐいとストーリーに引き込む力がある。そして伊坂流勤善懲悪は相変わらず小気味よい。さあ、神様のレシピで献立でもたてようか。(濱本)

川の名前

川端裕人/早川書房/2006



これは少年達が自分の居場所を知り、旅立つ場所を知る一夏の冒険物語だ。

世界中を回る父親と離れ、日本で何事もなく夏休みを過ごす予定だった主人公とその友人達は小学五年生の夏、川で野性のペンギンと出会った。まさかのペンギンとの遭遇に興奮を隠せない彼らは夏の自由研究のテーマをペンギンの観察に決め、波乱を含んだ彼らのペンギンサマーが始まる。

自然の厳しさ、大人の狡さに翻弄されながらも守りたいもののために立ち向かう主人公達が無謀ながらもとにかく熱い。思わず彼らを応援してしまう。目の前のことにひたすら精一杯な彼らに、知らず知らずの内に憧れを感じる自分がある。いつの間に私達は楽に生きる方法を覚えてしまったのだろうか。

最後に「川の名前」という発想が美しく身にしみた。世界の始まりは、私達のルーツはすべて川なのだ。(濱本)

空の中

有川浩/メディアワークス/2004



200X年、空が啼いた。二度の航空機事故は人類を高度2万メートルの眠れる秘密と接触させる。そして未知の生物の覚醒とともに、世界は崩れていく。世界は色取られていく。全ては傲慢に置き去りにされたまま。

そんな中、秘密を手にした少年は、遠い空に手を伸ばす。何を得たのかはわからない、何を望んだのかはわからない。ただ、留まることなく流れていく運命に、楔を打ちたくて……。

ラピュタとガメラとプテラノドンが好きだという「図書館」シリーズで有名な作者の一冊です。SFの要素を盛り込んでいる話なので大雑把なんじゃないかな？と最初は思っていたのですが見事に覆されました。人物の繊細な心情を丁寧に書ききっているので、読み終わってからの余韻が凄く綺麗です。人は何かを犠牲にしなくては、何も守ることが出来ないのでしょうか？何も得ることが出来ないのでしょうか？

人と人、人にあらずるモノと人、人にあらずるモノ同士の対立が交差するなかで、最後に選ばれる結末とは？(森)

猫泥棒と木曜日のキッチン

橋本紡/メディアワークス/2005



——「お母さんが家出した。あっさりと私たちを捨てた」

残されたのは主人公で17歳のみずき、そして彼女の弟のコウちゃん。

捨てられた彼女らは、サッカーを奪われた健一さんと新しい家族をつくる。

ちょっとおかしいかもしれないが今度は壊れぬように、今度はそこに在り続けるように。

平穏が全てを優しく包み込み、時が過ぎていくなかで、彼女は あるもの と出逢う。

軽いはずの段ボールは重かった。重いはずの命は、軽かった。

暖かくて優しく、でもどこかに闇が混じった、そんな不思議な物語です。

読みやすい文体で、且つ展開も速いので退屈せずに読み終わられました。

最初の時点では意味不明なタイトルも、最後では重要な意味を持ってきます。

登場人物は皆、何かを失っていて、それでも今を精一杯生きている。不恰好でも前に進み続けようとしている。(森)

デート ウィズ ドリュー



日本語に訳すと「ドリューとデート」このドリューとはE・T（主人公の妹役）、チャーリーズエンジェルに出演していたドリュー・バリモアのこと。ドリューに運命を感じてしまった男、彼がドリューとデートをすべくビデオカメラ片手に奔走するドキュメンタリー（おかげで画面が揺れる）。

電波少年を彷彿させる画面、主人公に立ちふさがりいくつもの障害、そして救いの手（キャメロンディアスのお兄さんとか、ドリューの元彼とか）。スーカーマがいの行為（ダイエット、エステ、ホームページの開設、ラジオ出演、そしてプレミア会への不正進入、同じヘアサロンに行ったり、似た人で予行練習したり……）にも関わらず、ドキドキのエンディングにきっとあなたも夢を追いかけてくなるはず。（山本）

サン・ジャックへの道



スペインが舞台のフランス映画。お母さんの遺産を相続することになった兄弟。遺産相続の条件としてスペインはサンティアゴ・デ・コンポステーラまで巡礼の旅をすることになってしまう。わけありの男女が次々と加わり（かなり若い女の子2人、イスラムのメッカに行けると信じて参加したアラブ系の男2人。そして、頭にターバンを巻いた女。それからメンバーをどうにかまとめるガイド）兄弟の仲は悪い。

巡礼の中で、9人は自分自身と向き合うこととなる。美しい巡礼路の中で見ている人が心を洗われる、「心のデトックス」的な映画。「靴のかかとか減った分、幸せになれる」という広告のメッセージも素敵。（山本）

オリバー！



ディケンズ原作の映画をミュージカル風に仕上げた作品。孤児院から意地悪な葬儀屋に買われたオリバー。ロンドンに逃げ出すがそこで出会った泥棒の仲間にされてしまったり……とストーリーは全く変わらないものの、ロンドンの町並みやめくるめくキャラクターに目を奪われる作品。

街中を巻き込んで繰り広げられるミュージカルには圧倒。その街をいろいろな服装の人々が踊りまわり、画面にあふれる歌と踊り。昔あった、「オズの魔法使い」が好きな人は見るとよいかも。（山本）

（担当 18生 濱本 明恵
19生 森 あやみ、山本 拓宣）